

# 桜梅桃李

おうばいどうり

第4号

ふんわり やさしく おもてなし  
フォーサーズンズまつやま



あなたが  
あなたらしく…。  
あなたの未来に  
もっと笑顔が咲きますように…。

## 楽しい思い出



3月 梅見学

「砥部 七折の梅」鑑賞。  
ピンクや白の花があざやかでした。



2月 豆まき

にぎやかな鬼たちと、福は内です。  
鬼退治で福がいっぱい。



4月 お花見



4月 いちご狩り

あまいイチゴに  
笑顔も満開です。



楽しくお花見弁当をいただきました。

「フォーサーズンズまつやま」は医療機関、介護施設が同じ敷地内にある、  
本当の安心をお届けする「シニアマンション」です。

複合型シニアマンション  
**フォーサーズンズまつやま**

〒791-8021 松山市六軒町3-22 **TEL** 0120-442281

お問い合わせ **TEL** 089-923-1113

フォーサーズンズまつやま **検索** 受付時間／午前10時～午後5時 無休

河田外科脳神経外科グループ

**医療** 河田外科脳神経外科  
泌尿器科あらきクリニック

居宅介護支援事業所  
デイケア ほの家

**介護** グループホーム はなの家  
ヘルパーステーション わが家  
ケアレンタル さわや家

訪問リハビリテーション  
介護付有料老人ホーム エメロード  
デイサービス ほがら家

(第4号 2015年5月発行)

## ご入居者さまの声

柚山 茂子さま

3人のお孫さんと、  
7人のひ孫たちの  
顔を見る時が、  
至福の幸せ

ある日の午後。松山市六軒町・複合型シニアマンション「フォーシーズンズまつやま」には、元気な笑い声が響いています。久しぶりに触れる子どもたちのエネルギー。居合わせた入居者の方々も目を細めて見守ります。この元気なお子さんたちは、同マンション8階に入居されている柚山茂子さんのご家族。東京など県外に住んでおられるお孫さんのそのお子さんたちつまり、ひ孫さんたちも交え、年に数回、柚山さんの家を訪れます。3人のお孫たち家族は、時には柚山さんの部屋に泊まり、「フォーシーズンズまつやま」で食事を共にします。ひ孫さんは、「フォーシーズンズまつやま」の料理スタッフが作ってくれる「お子さまランチ」はもちろん、建物から見える伊予鉄の電車、観覧車「くるりん」が、ことのほかお気に入り。

やつと訪れた平和な時代  
好奇心と向学心で動き続ける  
実りの時間

世の中が落ち着き、茂子さんに時間のゆとりが生まれました。そんな時、回覧板でみつけたのが万葉集講座です。戦争のため学問から遠ざかっていた青春時代。乾いた土が水を吸い込むように、茂子さんは学び始めます。古典文学大系などを教材とした高レベルの講座でした。講座の人たちと一緒に万葉集ゆかりのお寺を回ったり、句碑巡りをしたり。60代から70代まで、この講座通いは10年ほど続きました。

他にも社交ダンス、日本舞踊、コーラス、華道、茶道、海外旅行とあらゆることに関心を持ち、その道を究めてこられた柚山さん。動くのが少し不自由になつたため、平成22年に同マンションに入居されました。翌年、忠明さん永眠。



スタッフの笑顔で、心ゆたかな日々を…\*

皆さまが、こじんら豊かな日々を送れますよう、  
生活面はもちろんのこと、お食事でもお一人  
おひとりに対応する細やかなサービスを行っています。

さらに、同じ敷地内にある医療機関、介護施設で健康面もサポート。

また、お花見やいちご狩りなど、季節ごとの行事・イベントも好評いただいています。



## 眺望ばつぐんの 「展望風呂」

ご入居されている皆さまが、特に喜んで  
くださるのが「フォーシーズンズまつやま」自慢の、8階の「展望風呂」。遠くを見ながら、ゆったり入るお風呂タイムは格別です。「ひのき風呂」と「石風呂」の2つのタイプを交互に楽しめます。



石風呂／夜になると、ライトアップされた松山総合公園のお城を眺めることができます。



ひのき風呂／東側の窓からは松山城の景観が。快晴であれば、お城の左側に石鎚山が、くっきりと望めます。



入り口付近の花園にて。



ジュネーブバラ園  
夫婦仲良く、旅行にもたくさん出かけました。



お嫁さんと想い出の扇子を持つ茂子さん

桃桜  
李梅

少女時代の「スポーツ女子」は  
戦時中・戦後を  
駆け抜けて  
明るく、たくましく、

船乗りせむと 月待てば  
潮もかなひぬ 今は漕ぎ出でな

—額田王—

柚山茂子さんは四姉妹の次女として、大正12年、松山市に生まれました。自称「おてんば」だった少女時代は、毎日プール通いするほどの今でいう「スポーツ女子」。結婚前には、2年間ほど小学校の教師も勤められました。昭和19年に夫・忠明さんと結婚。大阪へと嫁がれましたが、戦時中食べ物が多く田舎ならどうにかなるだろうと、今治市へと移住。昭和20年、実家のあつた松山での空襲のさまで、今でも目に焼き付いているそうです。松山は焼け野が原、さらに今治の家も空襲で焼けてしましました。

それでも、戦後は忠明さんが松山で教師をされ、同56年に松山北高を定年退職した後、私立松山東雲高校、松山商大短期大学部の教員として70歳まで勤められました。ご家族は何度も引っ越しをされた後、温泉が近い道後地区に居を構えられます。